

松代象山會記事

先生と郷を同じ其高風を欽慕する者常に隨時相會し其遺著遺蹟を研鑽しつゝありしが明治三十五年先生碑石の建設ありし以來殊に此等の會合を視る多かりしを以て明治四十四年三月に至り矢澤頼道野中高之助永島宗太海沼常男羽田桂之進諸氏が發起となり有志相會し茲に松代象山會の命名を爲すに至れるなり爾來歲月を経る淺しと雖も其本會の目的を遂行せるの功績は蓋し尠からざるべし左に本會の概要と五十年祭に當り本會が經營せんとする事項を記す

本會の目的を遂行せんが爲め役員數名を置き之を處理せしが本年先生の五十年祭を舉行するに際し誕生地の保存を計り展覽會等を開催するに決せるに依り臨時に祭典準備委員誕生地設計委員象山全集編纂委員展覽會委員等數名を委嘱し各事務を分擔し之が進行を計り會長には眞田男爵閣下を推戴せり

象山先生誕生地

先生の誕生地は松代町に於ける佐久問家の舊地にして爾來轉々他人の有に歸せ

しを本會にて購入し之を松代町に寄附し一庭園としたるものなり此庭園には先生遺愛の柿櫻躑躅等の樹木用水の井池水の尙存するものありしを以て之が保存を計り更に松梅櫻等數十株を移植し會長閣下の揮毫に係る一碑石を建設し先生の命日なる本年七月十一日をとし其式を舉行せり目下特志者の寄附金を募集中なるを以て其支出殘餘は之を蓄積し維持の基金に充てんとす

象山先生五十年祭典

五十年の祭典は大正二年十月十二日を以て壯嚴なる式を松代町小學校内に舉行し同日より同月十七日に至る迄信濃教育會埴科教育部會と提携し教育展覽會を開催し先生の遺著遺墨及眞田家の什物等をも出陳せんとす

附記

象山山巔に一大豊碑あり一世の英傑象山佐久間先生の碑是れなり此地は先生の嘗て遊賞せられし所にして明治廿五年松代町山崎國次郎氏有志の贊助を得て一私園となせしが其後同町矢澤頼道野中高之助羽田桂之進澁谷恭佐藤房次郎諸氏の賛同を得て此地を町村に寄付し一公園とし之れに先生の碑石を建設し永くそ

の英靈を弔はんとし前記諸氏の發起に依り有志の捐資を得て明治三十五年七月に至り全く其工を竣へたり碑は山縣公爵閣下の篆額重野文學博士の撰文日下部鳴鶴翁の書にして其費す所實に金壹千八百餘圓に達せり此舉は實に松代象山會の前身と稱すべきものなれば茲に其概要を附記すること爾り

大正二年九月

索

引

各項目
の注意
宛本名
を文の
下索番
にあす
べとる
し引は
き書
合簡

書簡事實索引

國事

五五	八九	九二	二四三	二四四	二六〇	二六一	二六二	二六三	二七一
二七二	二七三	二七五	二七七	二八三	三〇三	三〇七	三〇九	三一三	三二〇
三二七	三二二	三四六	三六二	三六三	三六五	三七〇	三七一	三七二	三七三
三七五	三八〇	三八一	三八二	三八三	三八五	三八六	三八八	三九〇	三九二
三九三	三九四	三九五	三九八	四〇一	四〇三	四〇七	四一二	三九〇	三九二
四七四	四七六	四七七	四九〇	四九一	四〇三	四〇七	四一二	四四三	四四八
五四二	五四四	五四六	五四七	五四八	五〇一	五〇七	五三八	五三九	五四〇
六五〇	六五八	六六一	五四七	五四八	五六二	五八〇	六〇六	六四二	六四七

藩事

九	一〇	二六	五三	六四	七一	一二八	一六六	一八〇	一九一
一九九	二二二	二四五	二四六	二四八	二四九	二五〇	二八五	三一五	三七八
四七五	四七六	五一一	五二七	五三〇	五三三	五三五	五三九	五七四	六三八

兵制又軍事

書簡事實索引

銃礮

一四
二〇
八七
八九
三三二
四四七
二
一〇四
一〇六

洋學

六二
七三
七七
八五
九一
九二
一〇〇
一〇一
一〇四
一〇六

發明又應用

六八
七五
七六
七九
八二
八四
八六
八七
八八
一二四

興利

六七
七〇
七四
八〇
八四
九三
九五
一一四
一一五
一一六

醫事

一一八
一二〇
一二二
一六二
一七〇
一八九
二二〇
五四五
三二二
三四七

文事

三
一二
一三
二九
三八
三九
四〇
四一
四三
五四

五九四 五九七 六〇〇 六〇七 六〇九 六一一 六一二 六一三 六二八 六三二
六三七

教育

交友

私事

五二	六	一一二	一一二	三二八	三三二	六二二	六三一	三四	三六	五〇	五一
一	二	二	四	四	七	一一	一九	二二	二四	二七	二八
三二	四二	四四	一五二	一九二	一九三	一九八	二〇二	二〇三	二〇五	二八	
二〇七	二二四	二一八	二一九	二七〇	二九三	三一九	三〇二	三〇三	三〇五	三三	
三四九	三六四	三六九	三八四	四〇九	四一九	四二六	四三〇	四三九	四四五	三五三	
四六三	四六六	四六九	四七二	四八一	四八九	四二六	四三〇	四四五	四五二	四三三	
六二五	六四六	六五一	六五七	六六二	六八九	五三六	五五五	五九三	六〇二	六〇二	
五	八	一〇	四五	四八	六九	八八	一二七	一三九	一四九	一四九	
一五七	二二七	二四二	二八一	二八八	三三四	三三五	三三八	三四一	四三八	四三八	
四七〇	四九四	四九五	五〇一	五五四	五五六	五五七	五五八	五七二	五七五	五七五	
五七七	五七八	五七九	六四一	六四三	六四四	六五三	六五四	六五五	六五六	六五六	

五十音順 書簡宛名索引

六五九 六六三

あ 赤澤助之進

松代藩老たり食祿四百石

あ 赤松氷谷

上田藩士象山江都遊學當時の交友

あ 相澤藤吾

望月主水の用人なり

い 磯田音門

松代藩士、町奉行、郡奉行等を勤む

い 池村良太郎

松代藩士使番を勤む砲術の門弟なり

い 伊木臈右衛門附三郎右衛門

松代藩城番組小頭を勤む俳號を朱櫻園といふ浦町に住す象山竹馬の女たり
三郎右衛門は臈右衛門の父なり城番組小頭を勤む

書簡宛名索引

- い 池田三七……………六二五
松代藩の賄役を勤む
- う 浦上四九三郎……………二九六
如不及齋と號す諏訪莊助の弟なり象山の木挽町塾の地主なり
- え 江川太郎左衛門……………六六四・六六五
龜山の代官なり天保十三年四月高島四郎大夫の門弟となり遂に其奥秘を得同年九月幕府より砲術師範の許可を受く同月七日象山其門に入る
- お 恩田頼母……………一〇・五三・七五・八四・一二七・一六〇・一六一・一九八・一九九・二一九
木工の子松代藩老たり食祿千百石象山知遇を蒙むること厚し和歌を好む柳泉と號す
- お 小山田壹岐……………七四・九一・九二・一二〇・一二二・一五四・二五五・二五八・二六四・二六五
松代藩老たり食祿千二百石
- お 大槻磐溪……………二三六
仙臺藩の儒者にして砲術に通ず象山と交り深し
- お 大槻龍之進……………二〇四
片倉小十郎の臣にして砲術の門弟なり
- お 岡野陽之助……………三七六

- お 小川邦人……………五八三
松代藩士目付役使役等を勤む象山の門弟なり
- か 勝麟太郎……………二七八・二八〇・三〇七・三三二・三四二・三四六・三六五・三九八・四一二・四二三・四三〇
海舟と號す旗下の士象山砲術の門弟にして其妹順子は象山の妻なり
- か 川路聖謨……………二七一・二七五
旗下の士なり大阪町奉行、勘定奉行等を勤む象山其知遇を受く
- か 川田八之助……………二六二
迪齋と號す幕府の儒員にして林家の都講なり
- か 片山仙左衛門……………一九六
小濱藩士にして砲術の門弟なり
- か 鎌原桐山附觀水……………三八・二二一
松代藩老たり食祿千石文武並びに能くす象山が江都游學以前の學師なり嘉永五年二月没す年七十九佐藤一齋と交はり深く著述多し
- か 鎌原伊野右衛門……………二九四・二九八・五七五
觀水は桐山の子なり

か 金子丈助……………松代藩老たり食祿四百石眞田志摩と事を共にしたる人なり 一四・六二

か 片岡此面……………松代藩士雪庵と號す町奉行、郡奉行等を勤む能書家なり象山の交友 一四・六二

松代藩士勘定吟味役を勤む

か 加藤土代二……………松代藩士 三三

今の男爵加藤弘之氏なり土代士は其初名、象山の門弟なり

か 加藤彦五郎……………上田藩士字は士成天山と號す象山の交友 四二

上田藩士字は士成天山と號す象山の交友

か 加藤某…………… 五六四

か 金子成三……………醫生なり象山の門弟 六二六

醫生なり象山の門弟

き 北山姉附安世……………象山の姉なり名はけい、年十九の時藩醫北山林翁に嫁し二十九歳寡婦となる象山より長ずること三歳なり寡居中貞操並びに子女教育行届き女工優秀の廉を以て藩より賞賜を受く安世はけいの長子なり安政二年正月表番醫となる後長崎に遊び蘭學の造詣深し象山の門 九〇・二五一・二七三・六三九・六四〇・六四三・六五〇・六五六・六六〇

象山の姉なり名はけい、年十九の時藩醫北山林翁に嫁し二十九歳寡婦となる象山より長ずること三歳なり寡居中貞操並びに子女教育行届き女工優秀の廉を以て藩より賞賜を受く安世はけいの長子なり安政二年正月表番醫となる後長崎に遊び蘭學の造詣深し象山の門

弟なり

き 吉祥院……………小諸一寺院の名 五三四

小諸一寺院の名

く 倉田左高……………松代藩の側醫 一七五・一七六・一七七・一七八・二八九・二九〇・三一七・三四七

松代藩の側醫

こ 小林柔介……………畏堂と號す佐藤一齋に學ぶ松代藩道橋方元締頭取、句讀方頭取、等を勤む象山の交友なり 一三三・六三一

畏堂と號す佐藤一齋に學ぶ松代藩道橋方元締頭取、句讀方頭取、等を勤む象山の交友なり

こ 小林善藏……………松代藩の馬醫なり 五五二

松代藩の馬醫なり

こ 小林又兵衛……………長岡藩士なり新潟町奉行を勤めし時象山に面し深くその人物に服す後ち子虎三郎を託す 二七四

長岡藩士なり新潟町奉行を勤めし時象山に面し深くその人物に服す後ち子虎三郎を託す

こ 小寺常之助……………大垣藩士なり砲術を象山に問ふ 二六八

大垣藩士なり砲術を象山に問ふ

こ 小山岩次郎……………小布施村の人にて洋畫を學ぶ象山の門弟なり 五四三

小布施村の人にて洋畫を學ぶ象山の門弟なり

こ 小松齡司…………… 六二二

- こ 孝右衛門..... 一一二
 - 松本藩士なり其子左右輔を象山に託す
 - 杵野村澁の手習師匠なり
- こ 兒玉元兆..... 一六三
 - 坂木の醫家なり
- さ 真田志摩..... 二四二・六三八
 - 圖書の子松代藩老たり食祿七百石象山を馴けたる人なり
- さ 齋藤友衛..... 四二九・四七六・五一二・五一三・五九〇・六四二・六四七
 - 松代藩士郡奉行側役頭取等を勤む象山の親戚なり
- さ 里見治右衛門..... 一〇五
 - 松代藩士目付役を勤む
- さ 佐藤安喜..... 二二二
 - 松代藩士官奉行を勤む
- さ 酒井金太郎..... 六一八・六一九・六二〇・六二一
 - 松代藩士なり繪をよくす
- し 庄内侯..... 二三四

- し 酒井左衛門尉なり拾四萬石を領す..... 一九七・二三九・三四五
- し 島津文三郎..... 一四五・一五七・二〇三・二三一・三二四・三三六・四〇八・四一〇・四一三
 - 中津藩士なり象山門下砲術の高足にして蟻川賢之助と並び稱せらる
- し 白井平左衛門..... 四四四・四四五・四五二・五四五・五七七・五八九・六二七・六四六・六四九
 - 松代藩士字は子康普請奉行吟味役等を勤む象山の門弟なり
- し 澁谷脩軒..... 五四
 - 松代藩側醫なり竹柄と號す字は酒侯蘇癖あり書に巧みなり象山交友中最も親しきもの、一人とす
- し 自謙..... 五五〇
- し 子專..... 四二四
- す 菅沼九兵衛附小彌太..... 一三一・一九〇
 - 松代藩士旭齋と號す郡奉行二の丸留守居等を勤む
 - 小彌太は九兵衛の子なり普請奉行目付役等を勤む
- す 菅鉞太郎..... 三一五・三二七・四〇〇・四九五・五三九・六一七
 - 松代藩士冠峯と號す武具奉行使役等を勤む象山の高足なり
- せ 關口紋右衛門..... 三三八

松代藩士、北山家の親戚

た 玉川一學……………五五五

松代藩士、留守居役を勤む

た 竹村金吾……………一〇〇・一〇四・一一四・一一五・一一六・一一七・一一九・一二五・一四九・一六四・一九三

松代藩士字は子習、馬奉行、郡奉行二の丸留守居等を勤む才學あり終始よく象山の爲に計り象山亦之に兄事したり

た 高田幾太……………七三・七六・七七・七八・八〇・八一・一〇三・一四七

松代藩士秋水と號す町奉行、郡奉行等を勤む音律に堪能にして兼ねて國風に長ず象山の交友なり

た 高野車之助……………一八・三〇・三四・三六・一五九・一九四

松代藩士秀叟と號す取次役、郡中横目役等を勤む初め象山に學ぶ

た 竹村熊三郎……………三〇二・五五三・五九四・五九五

松代藩士、馬奉行を勤む梁川星巖に學び詩を能くす春沙と號す象山の詩友なり

た 立田樂水……………二八三・三〇五・三二九・三三〇・三三一・三三五・三五六・四二七・四五〇・四五二

松代藩側醫頭取たり靜山、梧庵、樂山等の號あり象山の交友中最も親しきもの一人とす

た 竹内八十五郎……………二二五・二三五

字は錫命池水と號す易學に精し松代藩の句讀方頭取たり象山の老友なり

た 田澤喜兵衛……………一三二

松代藩士なり

つ 津田轉……………二八五

松代藩士なり留守居役を勤む

つ 塚田源吾……………六九

水内郡小市村の人天保十三年賄役格とせらる

つ 塚田五左衛門……………一一三・一六二

カ石村の人、象山上洛の節の供頭なり

て 寺内多宮……………四八六

松代藩士なり町奉行、郡奉行、側役頭取等を勤む

と 鳥飼右仲……………二四九

白河藩士側役を勤む

な 中俣一平(左吉の子)……………一二六・二〇八・二〇九・二一一・二一七

松代藩士側役武具奉行等を勤むかつて藩命により江川太郎左衛門に學び西洋砲術に精し

は 長谷川三郎兵衛……………五四四・六六二

松代藩士側役頭取郡奉行等を勤む

は 長谷川深美(昭道)……………一二九・二〇二

松代藩士なり、熊澤蕃山に私淑し又水戸學に出入す嘉永中藩老眞田志摩を輔けて郡奉行となり藩政改革に従事す象山より若きこと四歳初め砲を象山に學びたりしが後ち政治上反對の地位に立てり象山の上洛中深美亦藩の周旋方として在京せり

は 馬場彌三郎……………二四五

松代藩士、側頭取、取次役使役等を勤む

は 八田嘉右衛門……………九・一一・一七・二四・三一・三三・三七・四三

松代藩勝手用役を勤む素封家にして徳望あり象山の父神溪の時より交通最も親し

は 八田嘉助……………一五・一六・三五・四五・四九・九三・一〇七・一一〇・一六九・一七〇・一七一・一七四

嘉右衛門の子なり勝手用役を勤む

は 八田慎藏……………一一一・一四〇・二〇五・二七九・二八八・三四八・三四九・三五〇・三五二・三五七

嘉助の子なり字は子静齋庵と號す象山の門弟なり勝手用役を勤む

は 八田競……………二〇・一八九

松代藩士、象山の門弟なり

は 長谷川甚太夫……………二二六

松代藩士、象山の従兄なり

は 林辰之進……………一九五・二〇〇・二〇六

松代藩士なり

は 林修庵 附脩三……………二・三・七・三六四・三六九

上田藩醫なり大輝と號す畫を椿山に學び畫號を黃田山人といふ象山の交友なり
修三は修庵の子なり

は 羽田忠左衛門……………一六六・二二〇・三四三

松代藩の武具塗師を勤む象山の下手三ヶ村利用掛時代は其部下にあり

ふ 藤田東湖……………二六三

象山と面晤せしこと前後二回甲寅二月廿一日夜を最後とす世傳ふる所の象山と議合せす他日戰場に相見えんと激語せりといふが如きは好事家の捏造説なり安政二年歿す年五十
象山より長ずる事五年

ふ 藤岡甚右衛門 附夫人……………五〇・五一・五二・六一・六五・八三・九八・一〇二

松代藩士郡中横目付を勤む

ふ 藤岡伊織

松代藩士甚右衛門の長子なり山野奉行吟味役等を勤む桂林と號す象山玉池開塾の際より
の門弟なり

ま 松田直友

若宮村の神主にして象山の門弟なり

ま 増田助之丞

松代藩士、砲術の門弟なり

み 宮下主鈴

松代藩士字は君毅側右筆郡中横目付等を勤む經義に精通し就いて學ぶもの甚多し象山の
交友なり

み 三村晴山附未亡人

狩野家繪所の塾頭にして松代藩の側畫師なり名は養實別號樂眞齋藩主幸貫の寵遇を得繪
師より擧げて士格に列せんとせられしが辭して曰く内用を勤むるに人の注目を受けず却
つて便なりと毎に内使として水戸薩州等の諸藩に使し政事上賦替する所多し象山より長
ずること十一歳象山と交はり深く常によく象山の爲に計れり

み 三澤刑部丞

松代藩士、普請奉行道橋奉行等を勤む

み 宮本慎助

松代藩士勘定役を勤む花園と號す浦町に住す慎助の父市兵衛は算數に精し象山幼時就い
て其道を問へり

み 三好小三郎

紀藩久能丹波守家臣、象山砲術の門弟なり

む 村上誠之丞

初め兩宮左京といふ松代の人なり浦町に住す嘉永五年象山の弟として幕臣村上氏に入籍
す初め大番勤めをなし後ち蕃書取調所に勤仕す

も 望月主水外三篇

致堂と號す松代藩老たり食祿千二百石象山と交はり深し象山蟄居時代の寓居は其別墅な
り

も 百瀬甚右衛門

松代の骨董商なり屋號を山口屋といふ象山の家に出入してよく家事上の周旋をなせり

や 梁川星巖

名は孟緯字は公圖、慷慨の士なり詩を以て天下に鳴る象山と交はり深し安政五年京都に歿
す年七十象山より長ずること二十二歳

や 矢澤監物附將監

松代藩老たり食祿千四百石象山専ら其知遇を蒙むる天保十二年正月授將監は監物の子なり當時幼冲萬延元年七月家老となる

や 山寺源大夫

松代藩士なり、常山、權堂、使無堂等の號あり世子傳側役頭取、郡奉行、表用人等を勤む才文武を兼ね職に在ること殆ど四十年天下の名士と交はり各藩に聞ゆ松代藩屈指の政治家なり象山より長ずること三歳象山唯一の交友なりしが安政五年故あり絶交せらる絶交後と雖も其子信炳の象山の門に出入することを拒まず又よく象山の書簡を謄寫しおきたり本會が全集中に收めし書簡中其手記より得し材料頗る多し

や 矢島小治郎

小川氏なり藩士矢島源左衛門に養はる象山の門弟なり

や 山田兵衛

松代藩士落庵と號す拂方金奉行を勤む象山の門弟子なり象山蟹居中特に親戚同様に心得

べきことを命ぜらる

や 八木千之

上田藩士象山江都游學當時の交友

よ 横田甚五左衛門附作大夫

松代藩士、取次役、使役兼帶、先手壺番組鐵砲頭、物頭、等を勤む。作大夫は甚五左衛門の子にして象山の門弟なり

よ 依田又兵衛附源之丞

初め甚兵衛と云ふ松代藩士、使役、取次役等を勤む佐久間家の親戚なり

わ 綿貫新兵衛

松代藩士東陽と號す郡中横目付、勝手評議役等を勤む象山の郡中横目役勤務中同役たり象山より長ずること十歳許甲州流の兵學家にして和漢の典籍に通ず藤田東湖等と交り烈公より和歌を賜はりしことありといふ

わ 和田隼之助

松代藩士、番士を勤む象山の姪北山りうを娶る

家族

母堂.....五八・一八・一四二・一四三・一四四・一四六・二四三
名はおまん埴科郡東寺尾村荒井某の女、三十七歳の時象山を生む賢婦の聞えあり他日象山

の名をなすその庭調與つて力あり

家族

夫人……………二六一・二六六・二六七・五五四・五五六・五五七・五五八・五六〇・五六一・五七二・五七三
名は順子勝麟太郎の妹なり嘉永五年冬年十七象山に嫁す

家族

蝶菊……………一三四・一四一・一五〇・六五五・六五九・六六三
妾なり

雑 家老及役方……………六四・七〇・一二八・一三二・一三五・一五五・一六五・一七九・一九一

雑 宛名不明……………二一五・二五九・四三六・四六二・四七五・五二四・五二七・五三三・六三八

雑 生萱村大砲試演點放人員次第書……………九五・一二四・一三六・二七七・四三八・四七二・四八五・五〇八・五三五

注 意

宛名に附記せる説明は各個人を傳する目的にあらざるを以て單に象山に關係ある時代についてのみ記し其後に及ばず又其詳畧の如きも無名の人に却つて密なることあり一定ならずされば單に此記事により若くは其記述の分量によりて其人物を判ずるの誤に陥らざらんことを要す

大正貳年九月二十五日印刷
大正貳年九月三十日發行

象山全集下巻裏付

上下實價金七圓五拾錢

編纂者

右代表者

佐藤寅太郎

發行者

關 宇一郎

印刷者

佐久間 衡治

印刷所

株式會社 英 舍

發行所

尚文館



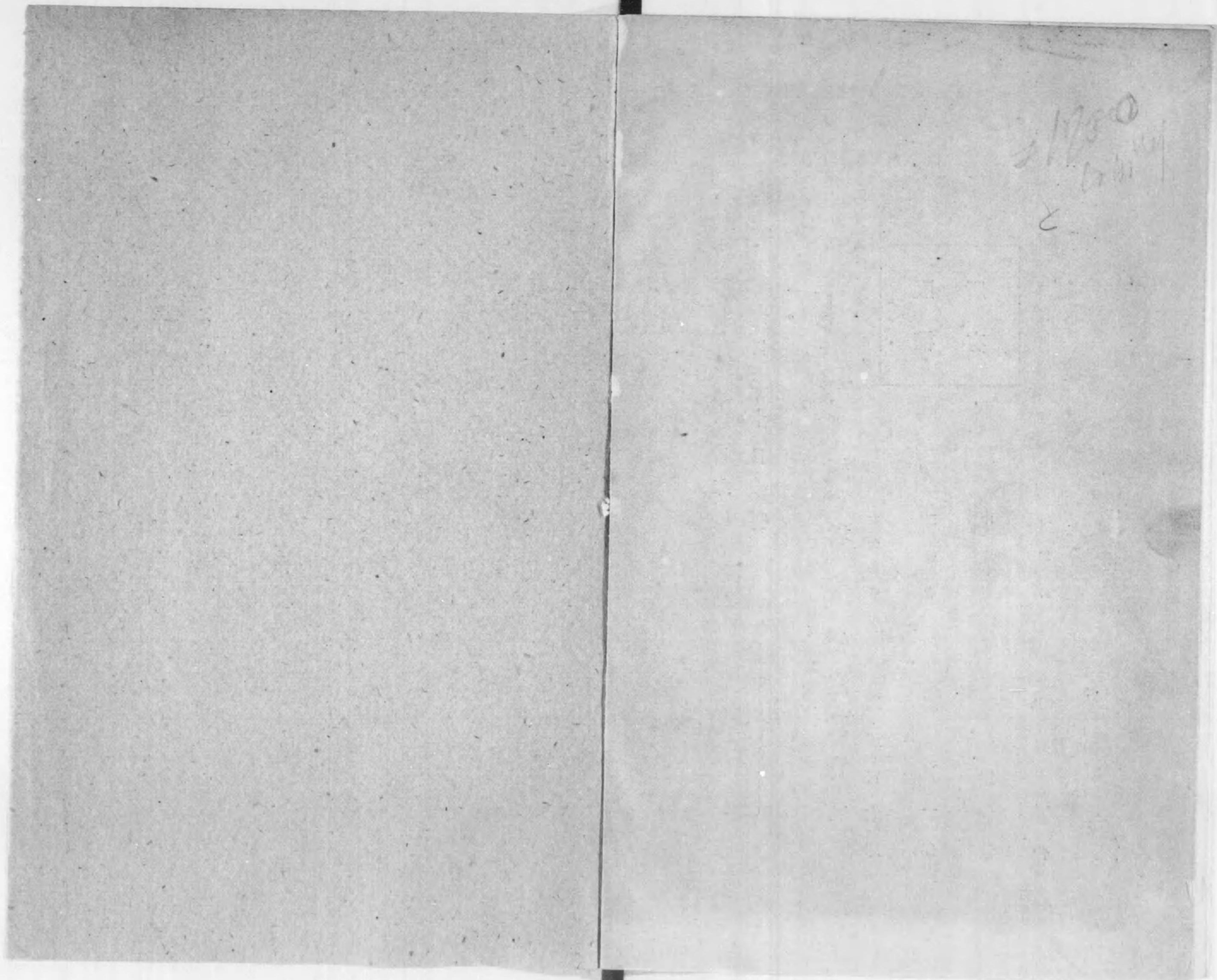
長野市縣町丙拾五番地

東京市日本橋區檜物町貳番地

東京市京橋區西紺屋町二十七番地

東京市京橋區西紺屋町二十七番地

東京市日本橋區檜物町貳番地



342

389

終

